

オリンピック・パラリンピック推進対策特別委員会

速記録第十九号

2015年6月22日

出席議員 十八名

委員長	高島なおき君	小林 健二君	林田 武君
副委員長	畔上三和子君	石川 良一君	川井しげお君
副委員長	小磯 善彦君	山内れい子君	立石 晴康君
副委員長	吉原 修君	小山くにひこ君	酒井 大史君
理事	橘 正剛君	徳留 道信君	欠席委員 なし
理事	秋田 一郎君	山崎 一輝君	
理事	吉田 信夫君	鈴木 隆道君	

出席説明員

オリンピック・パラリンピック準備局 局長	中嶋 正宏君	連絡調整担当部長	浦崎 秀行君
次長理事兼務	岡崎 義隆君	運営担当部長	児玉英一郎君
技監	佐野 克彦君	競技担当部長	根本 浩志君
技監	邊見 隆士君	パラリンピック担当部長	萱場 明子君
技監	石山 明久君	障害者スポーツ担当部長兼務	
理事	小山 哲司君	施設輸送担当部長	花井 徹夫君
総務部長	鈴木 勝君	施設輸送担当部長	荒井 俊之君
調整担当部長	雲田 孝司君	施設調整担当部長	小室 明子君
総合調整部長	加藤 英典君	施設整備担当部長	小野寺弘樹君
準備会議担当部長	矢部 信栄君	選手村担当部長	安部 文洋君
自治体調整担当部長	井上 卓君	スポーツ推進部長	早崎 道晴君
事業推進担当部長	福崎 宏志君	国際大会準備担当部長	土屋 太郎君
計画調整担当部長	鈴木 一幸君	スポーツ施設担当部長	三浦 隆君
大会準備部長	延與 桂君		

本日の会議に付した事件

二〇二〇年に開催される第三十二回オリンピック競技大会及び第十六回パラリンピック競技大会の開催に向けた調査・検討及び必要な活動を行う。

・二〇二〇年に開催される第三十二回オリンピック競技大会及び第十六回パラリンピック競技大会の開催に向けた調査・検討及び必要な活動を行う。

報告事項(質疑)

・二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック会場計画の再検討の状況等について

・新規恒久施設に係る後利用の方向性等について

石川委員

一部質問が重なっておりますので、省略をして質問させていただきたいと思います。

まず、ラグビー大会についてお伺いさせていただきます。

七人制ラグビーは十五人制ラグビーと同じ大きさのグラウンドと、実質的にはほとんど同じルールによって試合が行われるわけであります。また、試合時間も十五人制が四十分ハーフに対して七人制は通常七分ハーフのところを、オリンピック決勝では十分ハーフで試合が行われます。そして、来年のオリンピック・パラリンピック・リオデジャネイロ大会では、初めて七人制ラグビーの男女の試合が行われることになったわけであります。

新国立競技場は建設計画にさまざまな課題が噴出しているわけでありますけれども、今回、新国立競技場ではなく、調布の東京スタジアムにラグビー会場が変更になったわけであります。競技スケジュール上の問題が主たる要因というふうに答弁があったわけですが、東京スタジアムの隣に武蔵野の森総合スポーツ施設が建設されておりますが、この中には四百メートルの陸上トラックが入り、天然芝でサッカーやラグビーも行える補助競技場が新設されたことなども東京スタジアムが選ばれた要因ではないかと思っております。

また、選考とは直接関係ありませんけれども、多摩地域は社会人ラグビートップリーグのメッカといっても過言ではなく、府中市にはサントリーサンゴリアス、東芝ブルーバスの本拠地が、また、多摩市、町田市をまたいでキャノンイーグルスのグラウンドもあり、毎年のように日本一をかけて優勝争いを展開しております。このようにラグビーを振興していくにはまたとない適地ともいえる地域に、しかも二日間から六日間に開催日程が延長されることは大変喜ばしいことと思っております。

そこで、競技日程が長くなったことを生かして大会をどのように盛り上げていくのかお伺いいたします。

矢部オリンピック・パラリンピック準備局準備会議担当部長 招致エンブレムを使用したピンバッジやポスターなどは、平成二十三年度から平成二十六年までの四年間で、合計で約一億三千六百万円支出してございます。

石川委員 一億三千六百万円、四年間ということでございますけれども、大変な大きな金額が投入されたわけであります。

七月二十四日に公式エンブレムが公表されたわけでございますけれども、今までの桜のリースエンブレムが使用できなくなったわけであります。

旧のグッズは無償で配られたということもありまして、バッジ、ポスター、のぼり等、多くの皆さんの努力で普及をしたわけでございますが、一億三千六百万円かけたということでございますけれども、今までのグッズを何らかの方法で生かす道はなかったのか、お伺いいたします。

根本オリンピック・パラリンピック準備局競技担当部長 リオ大会におきまして競技日程が六日間となりました背景には、ラグビーがリオ大会からの新競技であり、世界に競技をアピールし、競技内容を理解してもらいたいとのIFやIOC等の意向があるものと理解しております。

二回目となる東京大会では、テレビやパブリックビューイング等を通じまして、さらに多くの方々に競技を知っていただき、大会の盛り上げにつながるよう、今後、組織委員会とともに競技団体等、関係者と連携し、具体的に検討してまいります。

石川委員 組織委員会としても、新競技である七人制ラグビーを知ってもらい、盛り上げていくことが課題であるとのことであります。

通常、七人制ラグビーは長くても一試合二十分程度で試合が終了するために、一日十試合以上行うことが可能とのことであります。観客を飽きさせないようにするためにBGMでスタンドを盛り上げたり、観客同士が仮装して観戦したりと、一緒に試合を盛り上げるそうであります。また、チアリーディングなども参加をして、選手と観客の一体感を図ったりするそうであります。ぜひチアリーディングのコンテストなども交えて行えば、参加型のオリンピックとしてさらに楽しめるのではないかと思います。

また、七人制ラグビーはメジャーとはいいがたく、特に女子の二〇一三年度の選手登録者数は三千人程度で、全国女子ラグビーフットボール選手権大会は昨年から開催されておりますけれども、選手層も選手の量もまだまだこれからといわれております。

安全性を考慮して、タグラグビー等の振興を図り、年少者や初心者が親しみやすいルールも考案されておりまして、導入をされております。十五人制のラグビーのメッカともいえる多摩地域で七人制ラグビーのオリンピック大会が開催されるメリットを生かしていく工夫をしていただくことをお願いしたいと思います。

次に、交通アクセスについて伺います。

オリンピック競技の開催については、東京スタジアムと武蔵野の森総合スポーツ施設、そして武蔵野の森公園で近代五種は既に決定しており、サッカー、自転車ロードレースも立候補ファイルに従えば、ほぼ内定しているといえるわけであります。

さらに今回、ラグビー、バドミントンが決定をしたことによって、武蔵野の森については観客数の大幅な増加が見込まれるわけであります。すなわち、公共交通の充実が求められるわけであります。JR中央線方面からのアクセスについては、シャトルバスなども運行することが想定されますが、多摩川の対岸のJR南武線や京王相模原線、小田急多摩線を結ぶシャトルバスの運行などの検討が必要であると考えますが、見解を伺います。

花井オリンピック・パラリンピック準備局施設輸送担当部長 大会開催時の輸送計画につきましては、これまで各競技会場におきまして、大会関係者や大量の観客を想定した検討を行ってまいりました。

武蔵野の森地区につきましては、今回の競技会場の変更を踏まえ、組織委員会と連携いたしまして、安全で円滑な輸送計画を策定してまいります。

石川委員 今後、安全で円滑な輸送計画を策定していくとのことでございますけれども、周辺の公共交通も含めて広域的な交通網を活用することを求めています。

一九九三年、多摩地域が神奈川県から東京都に移管されまして百周年を記念して開催されましたイベント、TAMAらいふ21の閉会式で、調布基地跡地に、百周年記念事業の一環として武蔵野の森総合スポーツ施設を、多摩地域のスポーツ振興の拠点として建設する旨の宣言が鈴木俊一知事から発せられました。私も、直接、宣言をその席で聞かせていただきました一人として今日を迎えたことは感無量であります。

武蔵野の森総合スポーツ施設は、東京スタジアムとあわせて多摩の一大スポーツ拠点を形成することで多摩地域のスポーツ振興と周辺のにぎわい、活性化を目標として建設に着手されました。そして、今回さらに二度目の東京オリンピック・パラリンピックの開催によって、地域やスポーツ振興を図る機会を得たことは大いなる喜びといえます。大会の成功のために最大限の努力を傾注していただくことを求めまして、質問を終わります。